

「読みやすさ・分かりやすさ」を 学校図書館から



なしまる



市川市は11月に
市制施行90周年を
迎えました！



流しカワウソ

千葉県市川市立南行徳中学校
特別支援教育コーディネーター
野口 由紀子



本日の予定



- 1 市川市立南行徳中学校紹介
- 2 特別支援教育コーディネーター
だからできること
- 3 読書バリアフリー環境を作ろう
 - ①放課後の職員室を活用しよう
 - ②通常学級の授業を活用しよう
 - ③支援学級の授業を活用しよう
- 4 つながれひろがれ
読書バリアフリー環境作り



Ⅰ 市川市立 南行徳中学校紹介



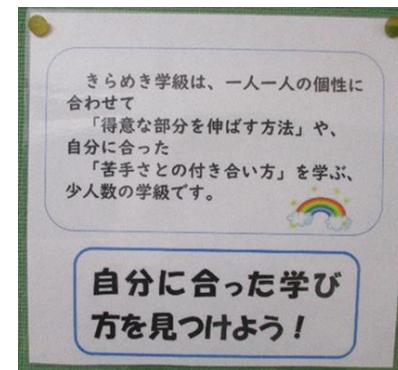
千葉県市川市立 南行徳中学校



生徒数 607名
学級数 19学級(内支援学級2学級)

南行徳中学校図書館では、「絵本」を学習の導入に使用したり、テーマに沿った絵本作品を学習の単元に資料としてして使用するなど、学年に関係なく絵本に親しんでいます。

学校評価アンケートの本校独自項目にも、「日頃から読書に親しんだり、図書資料を使って調べ学習をしたりしていますか」という記載があります。



自閉症・情緒特別支援学級
きらめき学級(開級5年目)

朝読書

ユニバーサルデザインを
意識した授業の実践

図書館を活用した授業

南行徳中学校 令和6年度学校経営方針

教育目標 「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成

めざす生徒像

- (1) 自ら進んで確かな学力・学習する力を身につける生徒
- (2) 礼儀正しく、気持ちのよいあいさつができる生徒
- (3) 感謝と思いやりの心を持ち、他の人と協働して共に向上できる生徒
- (4) 健康な身体とたくましい体力を持ち、運動に親しむ生徒

南行徳中学校の重点目標

- (1) あたりまえのことがきちんとできる学校
- (2) 生徒の活動が見える学校
- (3) 授業改善を推進する学校
- (4) きれいな環境を整える学校
- (5) 特別支援教育を推進する学校
- (6) 地域と連携する学校

めざす教師像

- (1) 授業の質の向上のために自らの授業を振り返り、研修や授業改善に努力する教師
- (2) 生徒一人ひとりへの理解を深め、生徒に活動意欲を持たせることができる教師
- (3) 教育への情熱を持ち、教員としての成長を目指すことができる教師
- (4) 生徒に豊かな表情で接し、明るくさわやかで生徒から信頼される教師
- (5) 学校の機能性を高めるために、報告・連絡・相談を密に行うことができる教師

具体的な取組

南行徳中学校の共通取組重要(落ち着いて学習できる環境)

下足箱の正しい 使用方法

- ・上履きは上の段
- ・下履きは下の段
(習慣化するまで指導を)
(掲示物の工夫を)

チャイム前着席・ 次の準備

- ・休み時間に次の授業の準備をする
- ・4校時が移動教室の時は机を移動する

集中して 清掃に取り組む

- ・清掃中は無駄な話はしない
- ・担当場所をしっかりと清掃する
- ・時間いっぱい取り組む
- ・きれいな環境をつくる

朝読書

確かな学力

豊かな心

健やかな体

- ・年間授業計画に基づいて計画的に(教科内での共通理解を)
- ・わかる授業の実践
- ・ユニバーサルデザインを意識した授業の実践
- ・生徒の活動がある授業
- ・本時のめあてがはっきりと示される授業
- ・図書館を活用した授業

- ・すべての生徒に声をかけを
- ・挨拶運動、オレンジリボンキャンペーンの推進(生徒会と連携)
- ・道徳教育の充実(年間計画に沿って計画的に)
- ・特別活動(委員会・行事等)の充実(生徒が活躍する場をつくる)
- ・マナーの指導

- ・授業や部活動中の怪我の防止(危険が予測される場合は、適切な対応を行う)
- ・ヘルシースクールの取組の推進(講演会の実施・外部機関との連携)
- ・食育の取組の推進(保健、家庭科との連携)
- ・生活リズムの取組の推進(保健・給食委員会や、養護教諭・栄養教諭との連携)

南行徳中学校 学校図書館



蔵書数 14,460冊
図書館の座席数 60席
学校司書の勤務 週3日



すき間時間に学校司書さんとこまめに話すことを大切にしています。

お話給食



学校図書館教育活動計画

令和6年度学校図書館教育活動計画(より抜粋)

～図書館資料収集方針～(支援学級に関わる項)

(5) 障がい者用資料

- ・主に、障がい者理解のための学習資料として収集していきます。
- ・支援学級「きらめき学級」での学習活動に応える資料を支援学級担当教員と相談のうえ収集していきます。

*これは、学校図書館法「目的」における、「この法律は、学校図書館が学校教育において欠くことのできない基礎的な設備であることに鑑み、その健全な発達を図り、もって学校教育を充実させることを目的とする」を意識し、全ての生徒が区別なく同じような読書環境を保障されることを意識し、環境整備をしようという学校司書の思いから、明記されたものです。

図書委員の読み聞かせ



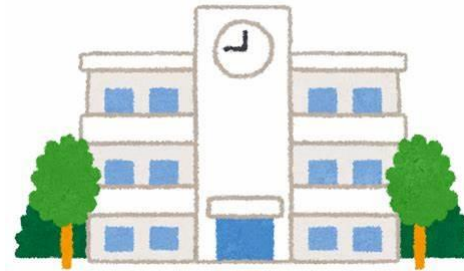
2 特別支援教育 コーディネーターだから できること

市川市立南行徳中学校
きらめき学級
(自閉症・情緒特別支援学級)

(特別支援学級)

支援学級担当者として・・・

- ・「困り感」や「行動の理由」を理解・支援するために学校全体で学び合い、助け合い、協力をする働きかけを行う。
- ・構造化した環境の工夫等
(通常学級に支援のアイデアを提供)



校内で支援を共有し合う環境作りを行なっています

特別支援教育
コーディネーター

(学校全体)

特別支援教育コーディネーターとは・・・

特別支援教育の推進のため、主に、

- ・特別支援教育に係る校内委員会
校内研修の企画・運営
- ・関係諸機関・学校との連絡・調整
- ・保護者からの相談窓口

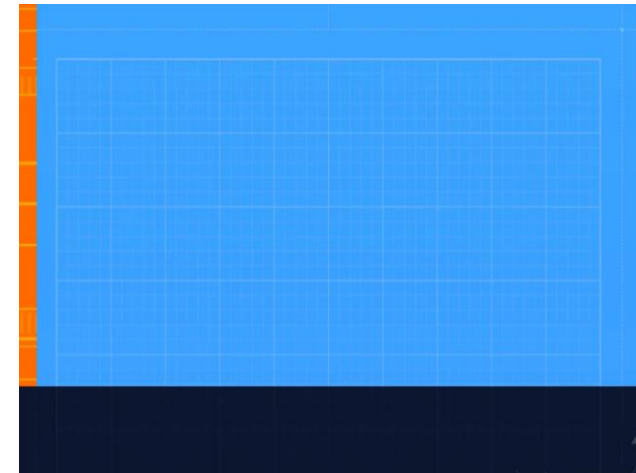
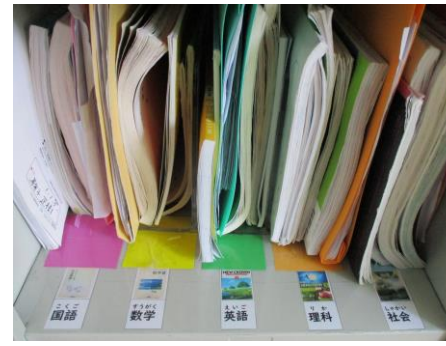
などの役割を担う教員



生徒たちに合わせた環境の工夫



片付けが苦手でも、縦に入れば探しやすさUP
(校内全体の取り組み)



技術の授業

タブレットを開けば、自分で手順や、取り組み方を確認できる

特別支援教育 コーディネーター

学校図書館

教員

生徒

読書バリアフリー環境作り

読書バリアフリーについて

～自分に合った読みやすさを考えよう～

R6年12月 若年層研修

りんごの棚
を活用した取
り組みは
「周囲の児童
生徒及び保護
者の理解推
進」に活用で
きそう！

インクルーシブ教育システムを推進するための 地域や学校等の主体的な取組を支援します 「インクルCOMPASS」ガイド



このガイドは、インクルーシブ教育システム構築の現状や課題を把握して、次の取組を見出すための手掛かりを得るための観点が記されたものです。

書きに困難さ
がありそうだ
(読みは?)

日本語が
分らない

DAISY教科書を
使っている

漢字が
読めない

聞くと
分かる

特別支援教育コーディネーター

4つの強み

①特別支援教育計画立案

- ・校内の現状やニーズを把握することができる（ガイドの観点から、具体的な取り組みにつなぐことができる。）

②個別の教育支援計画

指導計画の管理

- ・支援計画の有無にかかわらず、校内全体の生徒の情報が入る。（読み書きも含む）
- ・支援の相談や提案などを通して、教員全員と関わるすることができる。

③県や市の巡回支援との連携

ケース会議の設定

- ・読み書き等に関する支援の助言を受けたり、情報を得たりすることができる。
- ・読みの困難さ等、生徒の状況を話し合う場を設ける役割である。

④校内研修・情報提供

- ・読みの困難さに関する理解、DAISY教科書、読書バリアフリー等

3 読書バリアフリー環境を作ろう

①放課後の職員室を活用しよう

②通常学級の授業を活用しよう

③支援学級の授業を活用しよう

①放課後の職員室を
活用しよう！
～生徒の情報が行き交う時間に
アプローチをしよう～



すごいなあ
どうやって、
周知する？



図書館長(校長先生)



千葉県立中央図書館 バリアフリー資料 紹介セット



司書教諭・学校司書へ

「図書館に読書バリアフリーに関する空間を
作りたいのですが、場所をもらえますか？」

「国語で、こんな授業をしてもらいますね！」



職員室の真ん中で・・・

「みてみて！県の中央図書館からバリアフリー
資料が届いたよ！すごいよ！」
「こんな本があるのですね。初めて見ました」

「先生、電子ルーペの電源の入れ方教えて！」
「いいですよ。何倍ぐらいになるのかなあ」

「布絵本は、うちの子が小さいときに見たよ」
「大学の授業で、点字の本や使いやすい食器を
見た事がありますよ。」

「野口先生これ、何に使うの？どんな授業？」

各教科担任へ

・「家庭科は、これから絵本作りをしますよ」
「授業の導入でバリアフリー資料を紹介しに
行ってもいい？10分だけ私にちょうだい」

・「この棚を活かした「読みやすさ・わかりやす
さ」を考える授業を提案したいのだけど・・・」
「いいですよ！一緒に授業を考えましょう。
校内には、いろいろな生徒がいますからね」



「りんごの棚」 (知る棚)



学びを重ねると、資料の
とらえ方が深まり、身近
なものになっていく。



りんごの棚の資料から
話題を広げ、様々なテー
マをみんなで考える場
を作る。



「動くりんごの棚」 (考える棚)

それぞれの学びの場で目指すもの

通常学級の授業

- ・読みやすさに関する当事者意識を高める。
- ・個々に合った読みやすさ・分かりやすさがあることを理解し、認め合う気持ちを育む。
- ・自分の読みの困難さや読みやすさへの気づきを考慮して取り組み、適切な支援につなぐ。

支援学級の授業

- ・自分に合った読み方を知る。
- ・自分に合った読み方を活用する。
- ・個々に合った読みやすさ・分かりやすさがあることを理解し、認め合う気持ちを育む。

学年全体の授業 (総合)

- ・「人権教育」の中に、「読書バリアフリー」に関する内容を盛り込むことで、個々に合った読みやすさ・分かりやすさがあることを知り、他者を理解する気持ちを育む。
(バリアフリー資料紹介セットの活用)

②通常学級の授業を活用しよう 2年（国語） ～分かりやすさを考える授業～ 「ルビについて考えよう」



分類記号の確認中

図書館活用ワークシート

1. ルビ（ふりがな）がついている図書

ルビ	作品名	著者名	出版社名	分類記号	図書記号
金・ちよい・B791					
金・ちよい・B791					
金・ちよい・B791					
金・ちよい・B791					
金・ちよい・B791					
金・ちよい・B791					
金・ちよい・B791					

2. どのような図書にルビがついているのだろうか？

3. なぜ、ルビをつけているのだろうか？

4. 今回の授業の感想など。

ワークシート

【学習指導要領】教科の目標

「思考力・判断力・表現力」
社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。

「学びに向かう力、人間性等」
言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。



【なぜ、ルビを付けているのだろうか】

- ・小さいうちから簡単な漢字に触れさせ、自然と漢字に慣れさせていくため。
- ・様々な世代に興味を持ちやすく、親しみやすくするため。専門用語を知ってもらいたいとき。
- ・読み方が特殊なとき。昔の言葉を知ってもらうため。
- ・外国人に向いている。思いやり、配慮、やさしさ
- ・読者が読みやすいように。内容を理解するため。
- ・漢字が分からなくても、いろいろな人に物語を楽しんでもらえるようにするため。

【生徒の感想】

- ・ルビに知らず知らずのうちに、助けられていたことに気付いた。子ども向けでも大人向けでも、すらすら読めるようにルビを振っているほうがいいと思う。
- ・本の読み手は誰か？など、読み手の便利さを考えて作られている。
- ・これからもっといろいろな人が本を楽しめるように、いろんなバリアフリーが発展して欲しいと思った。
- ・日常に感じていたルビが、沢山のの人にメリットがあることが分かったことから、他にも、日常の中で大切な役割をしているものがあると思った。
- ・ルビがあれば、自分だけじゃなく、どんな人にも分かりやすくなり、本の世界に入り込めると思った。
- ・本は、いろいろな立場の人や国の人に言葉や知識、楽しさを伝えることが分かった。

【授業展開】

1. 導入（絵本を使って、分かりやすさ、カタカナのルビ振り等を説明）
2. 分類記号・図書記号の用途の確認
3. ルビがついている資料探し
(班対抗戦)
4. どのような資料にルビがついているか
(話し合い)
5. なぜ、ルビをつけているのだろうか
(話し合い・発表)
6. 授業の感想
(各自記入)

【授業者の感想】

- ・ワークシートに、分類記号を記入する欄を設けたことで、文学だけでなくいろいろな分類にルビが振られていることに気付き「さまざまな理由があるのではないかと、疑問を持てたようだ。
- ・学習的な要素だけでなく、日本語を学んでいる人や、様々な年齢層、生徒自身も含めて「分かりやすさ」につながる工夫があることに着目できた。それを「他人を思いやる優しさである」という言葉でまとめた生徒が多く、読書バリアフリー環境作りの一助となったことを感じた。

【日本語を学習中の生徒の感想】

- ・本を読むときに、ふりがな付きで読みたい。なぜなら、漢字が読めないから。この授業は、私にとって、とても面白かった。全ての班の発表内容や発言がとても好きだった。

3年（家庭科） 「絵本をつくろう」 （デジタルまたは紙のどちらかを選んで）



絵を描くことが苦手な生徒が毎年いて、苦手意識が出てしまうので、今年は、デジタルで作ることを選択肢にいたしました！



皆さんが絵本作りをしていると聞いて、今日は、バリアフリー資料の紹介に来ました！

導入の10分をもらって、出前授業に行きました。

野口先生のやり方を見せてもらったので、次のクラスからは、私がやりますよ！

ありがとう

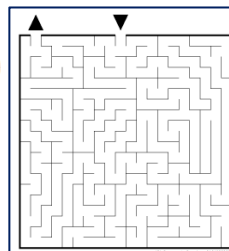


1学年「人権について」（総合） 当事者の話を聞こう～視覚障がい～

1月の事前授業（疑似体験）



2月の講演会



「読書バリアフリー」「りんごの棚」について、お話の中で、触れてください。

県の子どもの読書活動推進計画に 中学生の生の声を届けよう！

今、頑張っていると思うから、一緒に待とうね。卒業式までにできるといいね。

先生、あれから法律どうなった？
どんなふうになったか、オレも見れる？



取り組み事例が沢山掲載されています。写真も多く、授業作りのアイデアが膨らみます。特に、ボランティアに関する事例は、布絵本作りや本の挿絵等、中学生に関りの身近さや私たちにできる工夫、アイデアを伝えることができます。



子どもの読書活動推進計画（第5次）策定に向け7月に、教育庁生涯学習課の方たちから、読書に関するインタビューを受けました。生徒たちの感想は、「千葉県の取り組みに中学生が関わり、私たちの意見が活かされることに驚いた。経験できて嬉しかった。」でした。

千葉県子どもの読書活動推進計画（第四次）



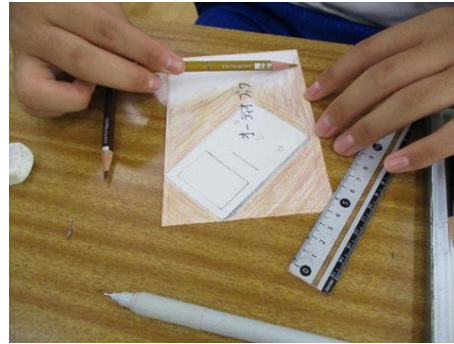
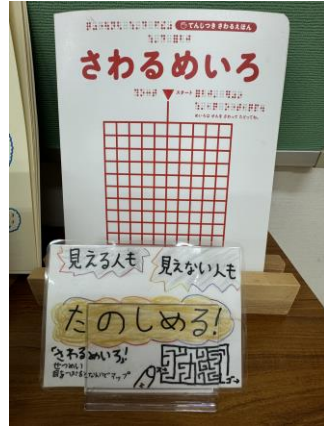
千葉県マスコットキャラクター「チーバくん」

千葉県読書（バリアフリー）推進計画

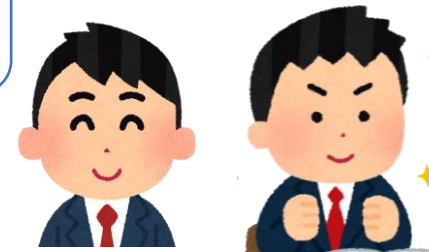
令和5年3月
千葉県・千葉県教育委員会

千葉県の取り組み

③支援学級の授業を活用しよう いろいろな読書スタイルを学ぼう！ ～マルチメディアDAISY図書で本を読もう～



ぼくは、漢字が
読めないから、
ルビが大事！



あれ！みんな違うぞ！！
便利さは人それぞれという結果に！



せっかく、自分に合った読みやすさを見つけたのだから、もっと読みたい。
うちでも読みたいなあ。
紙でも読めるけど、疲れるんだよ。
倍速で聞くと、分かりやすい。

授業計画

- ①「自分に合った読書の方法」があることを知る。
 - ・バリアフリー図書を選ぶ。
 - ・選んだ本の内容を調べる。
 - ・調べた内容からキャッチコピーを考えPOPを作る。（校内で紹介）

- ② DAISY図書で本を読む。
 - ・自分が分かりやすい機能を見つける。
 - ・ランキングを付ける。
 - ・友だちの分かりやすさを知る。

- ③自分に合った読書の方法を取り入れる。

マルチメディア
DAISY図書をTeamsで
共有できないかな。

ダウンロードできな
いのはなぜなの？

授業の相談で
理解者と協力者が
増えます

生徒たちの端末の
容量が足りないから、
作戦が必要ですね。
どのような授業を考
えているのですか？

ICT活用授業
での端末の不具合は、
仕方ないですよ

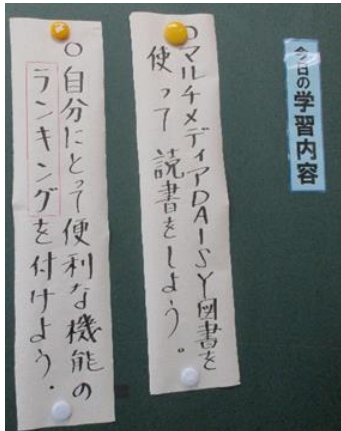
生徒たちが、あんなに
関心を示したのに、昨日
まで開いたファイルが、
開かないなんて・・・



校内のICT活用が得意な先生



教育事務所 指導主事



4 つながれ ひろがれ

読書バリアフリー環境作り

千葉県教育研究会市川支会 学校図書館教育部会

教職員の「自主的な研修の場」として、年に8回小学校、中学校、特別支援学校の教員が集まり、テーマをもって研究活動を行っています。学校図書館教育部会では、毎年「読書バリアフリー」に関する研修を取り入れており、各学校の取り組みに活かしています。定期的に読書活動に関する情報交換をしたり、実践を学んだり、学校司書のブックトークや取り組みを実演してもらったり、ニーズに合わせた内容を取り上げています。情報共有の場は、とても大切です。



R6年9月伊藤忠記念財団 わいわい文庫
「マルチメディアDAISY図書」について

【読書に関わる人たちが情報を
共有できるファイル】

- ・読書バリアフリーに関する情報
- ・りんごの棚の説明やマーク等
- ・りんごの棚の写真
- ・わいわい文庫の資料
- ・取り組み事例 等

市内共有ファイル
「読書バリアフリー」

リーディングトラッカー
を読書クイズの賞品にし
たところ、
「先生！すぐに読め
ちゃった！」
「集中して読めた！」
など嬉しい反応が返って
きました。

市内にひろがれ！「りんごの棚」

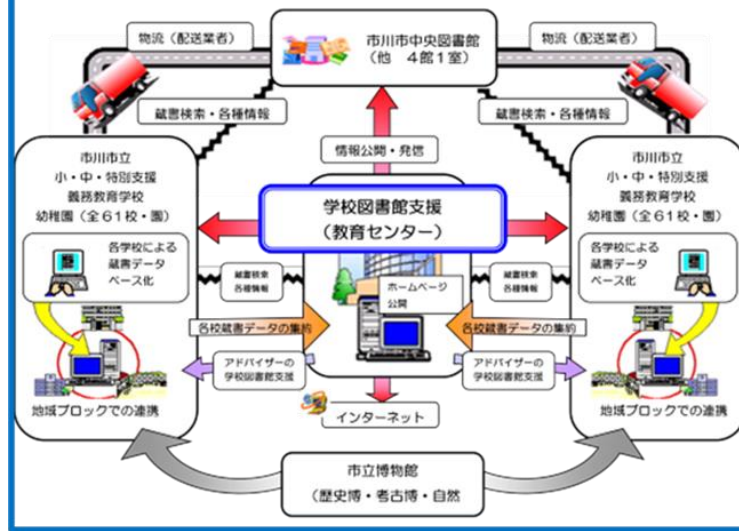


資料の少ない「こりんごの棚」でもOK！
子ども達の関心が動き出す空間を作り始めよう

市川市立曾谷小学校の読書週間 「りんごの棚を広める取り組み」



公共図書館と学校とを結ぶネットワークシステム



市川市の図書館のシステム

「特別支援学級での読書活動の情報が知りたい!」という声が上がります。
市内で情報共有することで取り組みが広がります。

学校図書館支援通信 177号

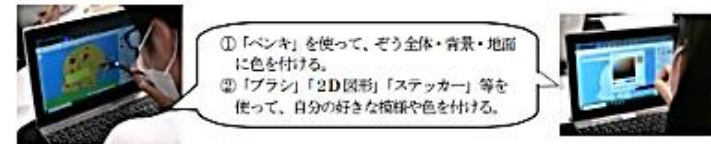
令和5年度 市川市教育センター

第七中 学校図書館 × タブレット

第七中学校にて、学校図書館とICTを効果的に組み合わせた授業が行われました。その取り組みについてご紹介します。
特別支援学級（白澤学級）の生徒を対象に行われた本授業では、『どうのエルマー』（デビット・マッキー作）の読み聞かせを聞いた後、ワークシートに描かれた「どう」に好きな模様をつける活動が行われました。

Teamsからファイルを立ち上げておき、事前の準備を整えた状態で授業が始まりました。
はじめは、学校司書による読み聞かせです。『どうのエルマー』を大型提示装置へ映しながら読み聞かせが行われました。きれいな「どう」の模様に、生徒はくぎ付けです。その間、担当教諭は生徒のタブレットの画面を確認することができました。

読み聞かせを終えると、いよいよ「どう」の模様を考える時間です。
あらかじめ Teams の投稿機能を使ってワークシートを共有しているので、全員が一斉にワークシートを確認することができました。今回は3Dペイントを使って色付けを行い、タッチペンも使用しました。



- ①「ペンキ」を使って、どう全体・背景・地面に色を付ける。
- ②「ブラシ」「2D図形」「ステッカー」等を使って、自分の好きな模様や色を付ける。

ペンキは罫線で区切られた範囲に一度に色が付けられるので、「どう」の絵がぼつと明るくなり、さらに生徒の関心が高まりました。細かな模様は、図形をはめ込んだり手書きで書き込んだりすることで、自分のイメージを膨らませることができました。

今回仕上げたものは一度保存し、次回ミライシードのオクリンクを使って鑑賞し合うための準備を整えて授業終了です。

今後、生徒が『どうのエルマー』の本と再び出会うことがあれば、本とともに、きっと自分や友達の色鮮やかな「どう」を思い出すことでしょう。



1 図書配送

- 中央図書館と学校、学校間で必要な図書の相互貸借を行っています。
- 配送業務は、配送業者へ業務委託をしています。
- 中央図書館を起点に2台の配送車が週2回（水曜・金曜）、全校61校（園）を一巡します。
- 貸出期間は、原則4週間です。
- 貸出冊数に制限はありません。



2 公共図書館の学校支援の充実

[1] 学校へ必要な資料の貸出を行っています。

- 年間1000件以上の依頼に対応しています。
- ネットワークシステム専用の図書を確保しています。
- 全蔵書を対象とする貸し出しを行っています。

[2] 学級文庫の団体貸出をしています。

- 発達段階に合わせた図書を用意しています。（低・中・高学年用、中学校用、特別支援学級・学校用）

[3] おはなしバスケット

- 幼稚園や小学校へ出張おはなし会を行っています。

公共図書館と学校とを結ぶネットワークシステム 市川市公式Webサイトより
*「学校図書館支援通信」もご覧いただけます。

特別支援学級の読書活動の話題も、取り上げられています。



「新しい出会い」の連続

特別支援学級・若木ゆめ学級には、週に1時間「図書の時間」があります。昨年度は、毎週「コールドコット賞受賞作品」を読み、テーマ探しのディスカッションを楽しみました。



- 今年度は「異なる読み方」に挑戦しています。
- 1週目…時給に合った「絵本」を読み、その後感想交流をします。
- 2週目…「文豪講座」ポプラディア、文学事典、タブレットを使い自由に取り組み、まとめのワークシートに文豪の顔絵を貼って完成。
- 3週目…その日の絵本について「マインドマップ」で整理します。主人公の環境、おはなしの疑問点やキーポイントなどマップにしていくと、意外なことがわかります。
- 4週目…筆跡手書き「友だちってなんだろう?」を付箋を貼りながら音読しています。心に残った言葉や文章をワークシートに残します。1年かけて読み終える長い読書です。



生徒からは「読み方の違いによって「読書」のイメージがどんどん変わります。」との感想が出ました。今週もどんな出会いが待っているのか楽しみに「図書の時間」です。

市川市立高谷中学校 学校司書 北井 恵子



図書貸借システム（ネットワーク配送便）は、全国に先駆けて、市川市が開始したシステムです。平成5年度より試験的に開始し、本年度で31年となります。
今年度も、市内各学校・中央図書館相互のネットワークによる多くの活用が見られ、授業等で児童生徒が幅広く図書資料に触れていることが伺えます。積極的なご活用、ありがとうございます。

令和5年度（目標：4～9月）	
配送数	12,879冊（一日平均460冊）
配達時間（一日平均）	5時間56分

このシステムを支えているのは、中央図書館の司書及び各学校の学校司書の方々です。
各学校の図書システムからは、市内全学校の蔵書検索を行うことができますので、学校司書との連携を図り、市川市全体を大きな図書館として更なる活用をしていただければと思います。

「学校図書館支援通信」は、市川市教育センターホームページでもご覧いただけます。
市川市教育センター
〒272-0015 千葉県市川市曳馬1-1-4
TEL 047-320-3335 FAX 047-320-3352
<http://www.ichikawa-school.ed.jp/index.html>

「読みやすい・分かりやすい」
バリアフリー環境作りにチャレンジ中！

【授業予定】
視覚障がい疑似体験
と読みやすさについて

マルチメディアDAISY
図書を使って、自分
にとっての読みやす
さを考えよう。
(通常学級版)



りんごの棚 (知る棚・考える棚)

【動くりんごの棚
の予定】

12月 ルビ振り本

1月 視覚障がいに関
する本

2月 分身ロボット
OriHimeと
テクノロジー
(職業)

特別支援教育
コーディネーター

学校図書館

教員

生徒

読書バリアフリー
環境作り

つながれ ひろがれ！

千葉県立中央図書館



市川市中央図書館



市内の小中学校
学校図書館



通常学級・支援学校・支援学級



ご清聴いただき
ありがとうございました